中野区教育委員会会議録

令和元年第１８回定例会

令和元年６月１４日

中野区教育委員会

令和元年第１８回中野区教育委員会定例会

○日時

令和元年６月１４日（金曜日）

開会　午前１０時００分

閉会　午前１１時３２分

○場所

中野区立塔山小学校

○出席委員

教育委員会教育長　　入野　貴美子

教育委員会委員　　伊藤　亜矢子

教育委員会委員　　渡邉　仁

教育委員会委員　　田中　英一

教育委員会委員　　小林　福太郎

○出席職員

教育委員会事務局次長　　戸辺　眞

参事（子ども家庭支援担当）　　小田　史子

子ども・教育政策課長　　永田　純一

保育園・幼稚園課長　　濵口　求

指導室長　　宮崎　宏明

学校教育課長　　石崎　公一

塔山小学校校長　　木村　淳子

中野東中学校校長　　田代　雅規

○書記

教育委員会係長　　落合　麻理子

教育委員会係　　香月　俊介

○会議録署名委員

教育委員会教育長　　入野　貴美子

教育委員会委員　　田中　英一

○傍聴者数

１６人

○議題

１　協議事項

（１）保幼小中連携について

２　報告事項

（１）事務局報告

①　「ふれあい（いじめ防止強化）月間」（平成３１年度第１回）における「いじめ等、児童・生徒間の問題の未然防止と早期発見のためのアンケート」の実施について（指導室）

②　平成３１年度中野区教育委員会「学校教育向上事業」研究指定校等について（指導室）

３　その他

（１）塔山小学校訪問

○議事経過

午前１０時００分開会

入野教育長

おはようございます。

定足数に達しましたので、教育委員会第 18 回定例会を開会いたします。

本日の会議録署名委員は、田中委員にお願いいたします。

本日の議事はお手元に配付の議事日程のとおりでございます。

ここで傍聴の許可についてお諮りいたします。

教育委員会の会議における傍聴人の数につきましては、中野区教育委員会傍聴規則第３条により、20 人以内と定められております。本日は傍聴を希望される方が多数お見えになる予定ですので、同規則第３条ただし書の規定により、20 人を超えて傍聴することを認めたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

入野教育長

ご異議ありませんので、20 人を超えて会議を傍聴することを認めることと決定いたしました。

続きまして、ここでお諮りいたします。

本日は株式会社ジェイコム東京から取材のため、教育委員会の会議を撮影したい旨の申し出がありました。会議を撮影する場合には、教育委員会の承認を受ける必要がございます。これを承認したいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

入野教育長

ご異議ございませんので、会議の撮影を承認することに決定しました。

なお、撮影に当たっては、会議に差し支えないように行っていただきますようお願いいたします。

また傍聴の方を撮影される場合には、個別に了解を得てから行っていただきますようお願いいたします。

それでは、議事に入ります。

さて、本日開催いたします地域での教育委員会は、中野区において開かれた教育行政を一層推進するために、区役所以外の場所に会場を移して開催をしているもので、今回で 35

回目の開催となります。

会議の進行につきましては、通常の教育委員会と同じように進めてまいりますが、本日の協議事項の「保幼小中連携について」は、テーマに関連して小中学校の校長先生や保育施設の方をお招きしてお話を伺う予定でございます。

また会議を一旦休憩し、協議テーマに関して傍聴の方のご意見をいただく時間を設けたいと思います。その後会議を再開し、いただいたご意見も参考にしながら、引き続き協議を深めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

＜協議事項＞

入野教育長

協議事項、「保幼小中連携について」を協議いたします。

初めに指導室長から、区としての全体的な取組についてお話をいただき、その後学校や保育園の取組等を紹介していただいた後、教育委員の先生方からご意見を伺い、協議を進めていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは初めに、事務局から説明をお願いいたします。

指導室長

ご紹介にあずかりました、教育委員会事務局指導室長の宮崎と申します。よろしくお願いいたします。

本日は協議に先立ちまして、中野区の保幼小中連携教育について、概要のほうをご説明させていただければと思います。

資料のほう、一生懸命用意させていただいたのですけれども、時間が非常に限られているということで、大変恐縮でございますが、やや急ぎ足になってしまうことをご了解いただければと思います。

それでは、まず私のほうからお話ししますのは、これまでの小中連携教育、そして保幼小連携教育、比較的これまではそれぞれの接続で別々に行ってきたところが多いので、まずそのお話をさせていただき、そしてこれから目指す保幼小中連携教育ということで、大きな二つのことでお話をさせていただければと思います。

まず最初なのですけれども、保幼小中連携教育のことをお話しする前に、ご案内の方も多いと思いますけれども、中野区には「教育ビジョン（第３次）」というものがございまして、これはいわゆる中野区の教育振興基本計画に当たります。そこに書かれている、概要的なものはここに示させていただいたとおりなのですけれども、子どもたちに知徳体の力

を身につけさせる。それから「目指す人物像」としてはそこに書いてあるようなことを目指しているということが掲げられております。

具体的には、今、申し上げましたけれども、教育ビジョンが目指すのは、子どもたちに知徳体の三つの面からの力の育成を図り、そして未来を切り拓く力を育んでいくということでございます。いわゆる学習指導要領がいう「生きる力」を子どもたちに身につけていくということが目標になっております。

さらに教育ビジョンの中を詳しく見ますと、子どもの発達にしたがってさまざまな目標が掲げられているのですけれども、目標Ｖとしまして、「保幼小中の連携や家庭・地域との連携が進み、子どもたちは生き生きと学んでいる」ということが目標として掲げられております。子どもたちが健全な生活習慣や学習習慣、そして知徳体からなる「生きる力」を身につけ、健やかに成長していくためには、幼児期から小中 15 年間の発達、成長を見据えた教育が求められるということがこちらに書かれております。そのためには幼稚園・保育施設、そして小・中学校が相互によく理解し、交流し、指導方法を共有したりすることによって、目指すのが、それぞれの次の学校段階への円滑な接続と、学びの連続性ということを重視した教育が求められるということでございます。

その中で今日のテーマにかかわります、学校再編と両輪で進む小中連携教育ということで、まずはこれまで行ってきた小中連携教育について、お話をさせていただければと思いますが、子どもたちの教育を充実していくため、そして教育ビジョンを達成するためには、左側に書かれております、まずは教育環境の改善、環境の改善が必要である。そして右側に書かれております教育内容を充実していかなければいけない。この二つの面が非常に大きな柱になると思いますが、それぞれを達成する一つの手段が教育環境の改善としては学校の再編、そして教育内容の充実の大きな柱の一つとして小中連携教育が掲げられている、こういう位置づけになっているということで、お話をさせていただきます。これによって教育ビジョンの達成を目指しています。

まずは学校再編の話なのですけれども、小中連携教育と両輪で進んでおりますが、より良い教育の環境を目指して、まずは望ましい規模の学校、さらには通学区域の整合性を図ること。そして例えばキッズ・プラザや地域開放型図書館などを設置していくなど、施設の整備を図っていく。このようなことが学校再編の中核になっております。

一方、小中連携教育でございますが、この内容の充実を目指していくわけですけれども、まずこれが求められる背景といたしましては、例えば中１問題、いわゆる中１ギャップと

言われているものでございます。小学校から中学校に移行するに当たって、さまざまな子どもたちに大きなギャップ、違和感、そして困難さが生じる。これは小学校から中学校で学校のあり方、指導の仕方等が大きく変わることによって生じることなのですけれども、それがきっかけでいわゆる不安感や不登校も生じてくるということで、この問題に何とか取り組んでいかなければいけないということでございます。

そしてねらいとしましては、そのような背景がございますので、接続をなだらかにすることとか、進学への不安を解消するとか、逆に小学生には中学校への憧れを持たせ、そして、先ほど申し上げた知徳体からなる「生きる力」を育成していく、これがねらいでございます。

これまでのスケジュールがどのように進んできたかと申しますと、３期７年間の計画でこれまでは小中連携教育を推進してまいりました。詳しくは時間がないので申しませんけれども、今年度、平成 31 年度は一番下にあります発展期の最終年度に当たりますので、当初の７年計画の最終年度に当たるということでございます。

では、具体的にどんなことに取り組んできたのかと申しますと、今日配付しておりますリーフレットをご覧いただければと思います。こちらには写真が載せられませんので、リーフレットを見ていただきますと、ここに掲げておりますような具体的な取組が、写真入りで掲げられております。開いていただきますと、片側は就学前教育、この後お話しします保幼小連携の話。そして片側が主に小中連携の話になっております。ここに書いてありますとおり小学校、中学校は双方の教員が乗り入れ指導をしたり、オープンキャンパスを行って、小学校の子どもに「中学校ってこういうところなのだよ」ということを体験していただいたり、今日この後、中学校の校長先生からお話があると思いますが、小中連携教育の協議会で小中の教員が共に研さんを深めたりとか、そのほか学校によってはモデル校、そして独自の取組などを行っている学校もあります。詳しくはそこに書いてある写真等を後でご覧ください。

そしてこれまでの成果は、本当に学校の努力でよく実りまして、小学生が親しみと憧れの気持ちを抱いて進学したり、中学生は自覚と自己有用感を育んだり、小中の教員相互の理解が深まったりして、その結果、落ち着いた学校生活が送れるようになり、特にちょうど接続期に落ち着いた学校生活が送れるようになり、それが学習活動や教育活動の充実につながっているということでございます。

右側にはどういうことが書いてあるかというと、学力調査の結果も、学校が落ち着いた

ことによって非常にいい結果が得られているということ。それぞれ学力調査では目標値を設定しまして、その目標値を70%以上の子どもが通過していくことを目標にしているのですけれども、その通過率も年々上がっているということが、右側に触れさせていただいているところでございます。

それに対して今度は保幼小連携のことについて、お話をさせていただきたいと思います。主に就学前教育、幼稚園、保育園、こども園等の教育がなぜ重要かということになりますと、先ほど申し上げた「生きる力」の基礎を培うという意味で非常に今、重要視されているところでございます。先ほど言った知徳体、それぞれの基本につながるところを就学前教育では育んでいただく。そういう意味で非常に大事だということでございます。

この保幼小連携教育の推進の背景としましては、小学校へのスムーズな接続と学びの連続性の確保ということが掲げられているのですけれども、平成29年3月31日に改訂されました幼稚園教育要領や保育所保育指針では、一番下の赤字のところになりますけれども、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、そして幼稚園教育、保育所保育と小学校教育の円滑な接続を図るように、この中でも示されております。

今、出てまいりました円滑な接続に向けてのキーワードですが、これは今後もたくさん出てくると思いますのでご紹介いたしますけれども、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、いわゆる10の姿というものがございます。ここにアからコで掲げさせていただいているところでございますが、お間違えいただきたくないのは、必ずこれが、小学校に入学するまでに目標として絶対達成しなければいけないというものではありません。子どもによっては個人差が出るものでございますし、逆にある先生のお話では、これ全てが備わっている小学1年生なんていうのはまずはいないと思いますというお話をいただきました。大事なのは、こういうことを育てていこうということを就学前教育施設、保育施設の教員・保育士と小学校の教員が共有していく。そこを共有して、共にこの接続をスムーズにしていく、学びの連続性を図っていくというのが目的だということでございます。

今申し上げたとおり、そういうところを共有して、保育園、幼稚園そして小学校の教員がカリキュラムの連携を図り、保幼小の接続を円滑にしていくということでございます。主な取組につきましては、申し訳ありませんが、先ほどのリーフレット、開いたページに載っておりますので、時間があるときにゆっくり見ていただければと思います。

ここにも主なものを掲げさせていただきましたけれども、保幼小の教員が連携を図ってともに研さんを深めたり、そのバロメーターとなるようなプログラムを策定したり、実際

には模擬保育や模擬授業などを行って、こうしたことに対する理解をお互いに深めているところでございます。

そして、これからの保幼小中連携教育ということで、今度はこの後、今年度以降のことについてお話をさせていただければと思いますが、来年度以降の新しい保幼小中連携教育が重視することといたしましては、やはり先ほど来申し上げております、学校段階等間の円滑な接続と学びの連続性の確保でございます。

先ほどは幼稚園教育要領等をお示ししましたが、同時に出ました小学校学習指導要領や中学校の学習指導要領でも、この学びの連続性については、はっきりと明記されているところでございます。

具体的に何を行っていくかと申しますと、まずは先ほど来申し上げている、今まで行ってきた中学校区を中心とした、核とした連携教育を改善し、さらに充実させていくということがまず挙げられます。中野区の場合、特に学校再編とあわせて、地域の結びつきが非常に強いので、その特性を生かして小中連携教育等を推進していく。

そして新しい視点としましては、知徳体を軸にしたカリキュラム連携、合同研究などを今後は進めてまいりたいと思っております。知徳体と柱を出させていただきましたが、例えば知ですと、就学前教育施設で学びの芽生え、例えば思考や言葉や創造の基礎となる部分を育んでいただいて、それが小中学校の確かな学力につながっていくとか、徳ですと人とのかかわり、ここを就学前教育施設で育成していただいて、それが道徳や情操教育につながる豊かな心につながっていくとか、体ですと運動遊びなどで育まれた生活習慣や運動が健やかな体、小中学校での体育や保健体育等の授業に引き継がれていく、こんなことを目指しております。

もちろん知徳体の大きな柱もございますけれども、さらに特別支援教育の視点もここに加えてまいりたいと思っております。

整理しますと新しい保幼小中連携教育の展開といたしましては、今年度はまずはこれまでの小中連携教育７年間の総括を各小中学校に行っていただく。並行しまして、来年度からの新しい保幼小中連携教育の骨子を、さまざまな委嘱委員会等で検討してまいりたいと思っております。そして来年度からの新しい保幼小中連携教育を展開してまいりたいと考えております。

ということで最初のテーマに戻りますが、「結ぶ・つなぐ・伸ばす 15 年間」ということで、今後もこのような保幼小中連携教育を進めてまいりたいと思っておりますので、どう

ぞご理解のほど、よろしくお願いいたします。

私からは以上でございます。

入野教育長

ありがとうございました。続きまして、本日の会場である塔山小学校の木村校長からお話を伺いたいと思います。

木村校長、よろしくお願いいたします。

木村校長

塔山小学校にご来校いただき、ありがとうございます。本校の校長、木村淳子でございます。よろしくお願いいたします。

本校は中野区立中野東中学校、桃園第二小学校、谷戸小学校、白桜小学校、そして本校の５校で小中連携教育の実践を行っております。また中野区立ひがしなかの幼稚園、中野区立仲町保育園、私立陽だまりの丘保育園、私立太陽の子中野中央保育園などと保幼小連携教育の実践を積み重ねております。具体的な連携の例は、中学校の先生や保育園の先生がお話をしてくださるということですので、私は保幼小中連携教育の一環として、本校で実施している小学校１年生の入学当初期の取組をご紹介いたします。

ねらいは３点あります。一つ目はスムーズに保育園・幼稚園から学校文化への移行ができるようにすること。二つ目が個々の特性に配慮し、新しい環境への不安が最小限になるように環境を整えること。三つ目が個々の支援ニーズを見取り、校内のサポート体制の検討材料とするです。

では、実際にお見せしたいものがあります。入学してからの１週間は、朝１年生の教室に本校は特別支援教室の拠点校ですので、巡回指導教員が１人ずつサポートに入っております。また６年生児童もお手伝いに入ります。保育園や幼稚園から環境が変化し、大勢の中で担任の先生に話しかけることがまだできない児童もたくさんいます。そのようなときに児童が困っているとき、不安になっているときに、様子を見守りサポートを行っております。一方で、年長クラスで「自分でできるもん」という自信をつけて入学してきた子どもたちが、見通しを持って生活できるようにすることも大切にしております。

例えば本校塔山小学校は、児童の主体性、判断力、集中力の育成を目指し、チャイムが鳴らないノーチャイム制を取り入れております。上級生は学校の時計を見ながら生活ができますが、１年生はまだとても難しいことです。そこで時間が量として見えるように、１、２年生の教室に、時間が量で見えるタイムタイマーというものを使用しております。現物

を持ってきておりますので、こちらをお見せいたします。大きいタイムタイマーは１単位時間が 45 分ですので、このように 45 分間というものを赤い場所で示しております。これは今もそうですが、時間が過ぎるとともに、この赤い部分が減っていくようになります。こちらが、１単位時間はこれだけあるのですよというものを示す大きなタイムタイマーです。そしてもう一つ、このような小さなタイムタイマー、こちらは、あと５分でこの道具箱の中身をきれいにしましょうねというときに使います。こちらはこのように、同じようにして両方児童に見えるようにいたします。実際にその時間になると、「ピピッ」はい、お時間ですね、しまいましょうというように子どもたちに伝えております。

また朝のお支度が１人でできるように、黒板にこのような写真入りの指示カードというものを張っております。①が防災頭巾を椅子にかける。これは入学式の次の日のものです。②が手紙を箱に出す。③が机の中にこのようなものを入れる。④がランドセルをロッカーに入れる。⑤が、ここにありますが名札、自分の番号の名札をお胸につける。そして最後、⑥がトイレに行くというようなところを、子どもたちが自分１人でできることを目標に行っております。

しかしまだ保育園や幼稚園から入ったばかりの１年生ですので、これを１人でやるのはなかなか難しいことです。そこで６年生のお手伝い、このサポートがつきます。６年生のお手伝いに向けては、三つのお願いをしてあります。１年生が１人でできるように教えてあげるのが６年生のお仕事です。やってあげるのではなく、急がせずに見守りましょう。この黒板を見て①から順番にやるように教えてあげましょう。一つずつ「できたね」と伝えましょう。防災頭巾、名札は難しいので、できないときはやってあげてもいいです。名札は左のお胸につけましょう。最後は、なるべく体には触らないようにしましょう。１年生の顔を見て、優しくゆっくり指さしと言葉で考えましょう。ただし走ったり、勝手にいなくなってしまったりするときには、手をしっかりつないであげましょうというようなお話を先にして、６年生は優しく１年生のお世話をしてくれております。

また廊下にフックというものがありますが、保育園や幼稚園でもあったお子さんもいますが、フックという言葉はやはり少し難しいので、このような写真を見せて、これがフックですよとまず教えます。そして実際に確かめたらフックの下の部分に、自分の上履き袋をかけましょうというように、このように丁寧に行います。そして自分の名前のところにみんながかけると、こんなふうにお花畑みたいにきれいになるよというように、丁寧に教えていきます。このときに保育園や幼稚園で慣れているお子様もいますが、入学したこと

でドキドキして、ふだんはできることもなかなかできないお子様もいますが、ゆっくり、入門期は丁寧に行うようにいたします。

そして今度はフックの上の部分に体操着袋をかけます。体育着袋とも言いますが、体育着袋をかけますよとこのように写真で示して、実際にフックに触らせてから自分の体育着袋をかけるようにいたします。そしてこのときにも、下に間違って２個かけてしまったり、上に２個かけてしまうことがないように、丁寧に１人ずつ、名前のところにかけてあるかなというように進めていきます。

またお道具箱を整えるときにも、初めに空のお道具箱のお写真を見せます。どのクラスも同じ写真を使っていますので、塔山の１年１組、１年２組、１年３組とも同じような状態が生まれるということがあります。これは新しく入ってきた先生や、若い先生にとってもとても役に立っています。お道具箱に、ネームペンをここのお部屋に入れましょう。色鉛筆やクレヨンはここのお部屋です。はさみはここのお部屋、のりはここのお部屋などというように、きちんと写真を見せて一つ一つ丁寧に行っております。そしてこの写真が黒板に張ってあることで、何回も自分の机の中と確認をして、子どもたちは安心して授業に取りかかっていきます。

また保育園や幼稚園から入ってきた子どもたちが、すぐに授業に入るのではなく、幼稚園や保育園で勉強をして教わったときの手遊び、歌遊び、カードゲームなどをしてから授業に入ります。一つお見せいたします。こちらは動物カードです。保育園や幼稚園に行っていたお子さんたちもわかるような動物を取り入れています。ライオン、牛、ゾウなどと言って集中してから、では国語のお勉強に入りますというようにします。ただこれも毎日やっていますと、とても飽きてしまうので、例えば動物の顔だけが見えるような、このような隠し絵にして、これは何の動物かなというようなものをしています。これでもだんだん分かってきてしまうので、ちょっと難しくという工夫もしています。

以上で、塔山小学校の取組の発表を終わります。ありがとうございました。

入野教育長

木村校長、ありがとうございました。

それでは続きまして、中野東中学校の田代校長からお話を伺いたいと思います。田代校長、よろしくお願いいたします。

田代校長

中野東中学校の田代です。それでは、中野東中学校区の小中連携について、簡単にご説

明させていただきます。

指導室長からもありましたように、中野区の発展期の小中連携は、大きく分けて三つのことに取り組んでいます。まず一つ目は、前にもありますけれども小中連携教育協議会、これは小学校の先生と中学校の先生がともに集まって今年１年間、小中連携についてどういう研究をしていくかということを協議する場です。これが年間２回あります。

それからオープンキャンパスが年間３回あります。オープンキャンパスは小学生の児童が中学校の授業を見たり、部活動を体験したりして、中学校の様子を知ることです。

それから三つ目は乗り入れ指導です。これは小学校の先生が中学校へ授業に入ったり、中学校の教員が小学校へ教えに行ったりします。先ほどもありましたように、今問題となっている中１ギャップ、中学校への不安で不登校になってしまったり、そういう問題を解決するには、今の三つの方法はとても効果があると私自身も思います。

ちなみに先週ありました、後で若干出てきますけれども、オープンキャンパスでは小学生が来ていて、すごく雨が降って、本当は部活動も校庭で見せようと思ったのですけれども、雨が降ってきたので校庭ではとてもできないので、うちは 17 個部活があるのですけれども、全部はお見せできなかったのですけれども、体育館の狭い範囲で少しずつ見せて、小学生が 170 人ぐらい来たのですけれども、汗びっしょりになっていろいろな部を見ていて、終わった後にどうだったと子どもたちに聞いたら、中学生がとても優しくて、半分お世辞かもしれないですけれども、「来年中野東中に絶対行きます」と言っていたので、そういう子どもたちが楽しそうに話していたので、それは物すごく効果があるなと思っています。

それから乗り入れ指導についても、中学校の先生が数回授業に行って、それだけで何か変わるということはないのですけれども、やはり小学校の児童に聞いてみると、中学校の先生は優しいとか、思ったより親切だったとか、そういう中学校に関する不安がなくなる、とてもいい取組だなと思っています。

それでは、ちょっと様子だけ。５月にありました先生方の協議会の中野東中学校での様子を簡単にお示ししたいと思います。まずは小学校の先生に中学校の実際の様子を、授業を見てもらいました。３年生まで全部の授業を参観してもらいました。その後、体育館に、小学校４校の先生に全部集まっていただいて、最初に各小学校の校長先生からご挨拶をいただいて、その後、今年１年間の研究の方針について本校の教務主任が説明をして、今年は主体的・対話的で深い学び、それから心の教育、健康の保持増進ということで、先ほど

指導室長からも説明がありました知徳体、この三つのテーマについて、小学校と中学校の先生がグループに分かれて話をしようと。これだとちょっと漠然としているので、さらに細かく五つのグループに分けて、基礎・基本を小学校から中学校に定着させるにはどういう方法をとっていったらいいのか。それから写真にもありましたように、中野区はＩＣＴ教育に随分力を入れて電子黒板とかタブレットとかを入れてくださいましたので、小学校でも使って、中学校でもどのような連携ができるのか。それから今問題になっている心の教育の、道徳科についてどのように連携していくか。それから特別活動、これは児童会とか生徒会ですね。そういうものについてどういう連携ができるか。それから最後は健康ということで、栄養指導とかいろいろなものを含めたスポーツライフについて、この五つについて分科会形式で小中の先生が分かれて話をしました。私も全部の分科会を回って聞いていたのですけれども、ポスティングをして課題を分けていたりとか、非常に工夫してよくやっていました。このような感じです。

先ほどのオープンキャンパスの写真はこういう感じで、部活動の様子を見せたり、ちょっと暗くて見えないかもしれないのですけれども、その様子を先週金曜日にお見せしました。

そしてこれは乗り入れ指導、これは昨年のなのですけれども、今年も計画をしてやりたいなと思っています。

このほかにも運動会のときには、小学校の児童が参加する種目をつくったりとか、それから小学校の作品展に中学校の作品を入れたりとか、塔山小学校ではお祭りがあったりとか、ボランティアの行事があったりするので、それに中学生が参加して連携をしています。

以上で中学校の連携についての説明を終わります。

入野教育長

田代校長、ありがとうございました。

続きまして、本日はこの地域の陽だまりの丘保育園の新垣副園長に会場にお越しいただいております。新垣副園長には、陽だまりの丘保育園のご紹介、取組などについてお話をお伺いしたいと思います。

新垣副園長、よろしくお願いいたします。

新垣副園長

ただいまご紹介にあずかりました、中野区にあります陽だまりの丘保育園、副園長をしております新垣と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日はパワーポイントのほうを使いまして、保幼小中の連携について保育園の立場から

当園での実践ということで、園の簡単なご紹介と、中野東中学校さんと塔山小学校さんと連携して取り組ませていただいている事例のほうをお伝えしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

私どもの陽だまりの丘保育園、本園が123名で、職員数40名で123名の子どもたちを日々見ながら生活をしております。開園時間が中野区の認可保育園ですので、７時15分から18時15分が通常保育、延長保育が20時15分までということでやっております。

こちらは幼児保育室の様子です。３歳児22名、４歳児22名、５歳児22名が、異年齢の３グループに分かれて生活をしております。日々の生活は異年齢で基本的にやっておりまして、年下への優しさであったりとか、年上の子への憧れというところを育めたらなと思っております。左下のほうが、朝と帰る前にお集まりというものをやっておりまして、その日の活動内容を一緒に確認したり、振り返りをしたりという形になっております。上のほうは給食の配膳です。年長さんになるとよそったり、とりに来たときに子どもたちに「いっぱい？」「ちょっと？」という形で、量も自分で調整したりということができるようにしております。

こちらはご配付の資料の中にもあったと思いますけれども、幼児期の終わりまでに育ちが期待される10の姿ということで、私どももこちらのほうを大事な姿として捉えております。幼児期らしく教えるだけではなくて、環境を通して、とりわけ幼児の自発的な活動として遊びを通してこれらの姿が育っていく、それが小学校入学後も育っていく姿と捉えて職員で共有して保育を行っております。

簡単になのですけれども、園の様子です。子どもたちが散歩中にマンホールに大変興味を持ちまして、マンホールを一生懸命こすり絵でつくってみたり、落合の浄水場に見せていただいたりとかしたところから、その翌年なのですけれども、水の浄化ということにとても興味を持ったグループがおります。３、４、５歳児の異年齢の中ですので、主に５歳児はいろいろなことをやっていたり、そこに３歳児がちょっと遊びに来て、またいなくなってしまったりはするのですけれども、こんな活動をしておりました。図鑑の中で見て、ティッシュを汚れた水から新しいきれいなほうに移しておくと、きれいな水が移動していくというのを見て、それを試したりしています。なぜティッシュを通すと水がきれいになったのかというので、ティッシュに小さい穴が開いていて、水はサラサラだから穴を通れるけれども、砂ってザラザラで大きいから、穴を通れないのではないかなんていう予測も出てまいりました。そこはみんなで共有したりしています。こういった活動の中にも協同性だっ

たりとか、思考力の芽生え、言葉による伝え合い、豊かな感性と表現、こんなことも含まれているかと思っております。

左の水色のところなのですけれども、私どもの園ではドキュメンテーションと呼んでおりまして、今、子どもたちがこんなことに興味を持っていて、こんな活動をしているのだよということをお母様たちに掲示として、興味が動いたときにこういった形でお知らせをしております。そうしますと今、こんなことを楽しんでいるのだねということで、おうちで実際にお母様たちと一緒にまた調べてくれたりとか、一緒に共有してくださったりというところがあります。そういったことで、保育施設の中でもこういった10の姿が育まれているということをご理解いただけているのかなと思っております。さまざまなティッシュの仲間たち、枚数を変えたりすると、どれぐらいきれいになるのかなということでやって、子どもたちはとても満足をしておりました。

ここからはまた連携の話になってまいります。去年度、私ども22名なのですが、１名は年度途中に海外に転居されたということで、卒園児さんを21名送り出しております。就学先なのですけれども、東中野五丁目が新宿区との境にあるということもありまして、新宿区の小学校に行かれる子もいるのですが、例年、一番多く進学させていただくのが塔山小、あと白桜小ということで、このような内訳になっております。

卒園児21名がどんな構成だったのかなということで、兄弟児の割合を調べてみました。そうしますと３人兄弟とか、中には４人兄弟なんていう方もいらっしゃったりもするのですけれども、小学生以上のお兄ちゃん、お姉ちゃんがいるのだというご家庭は７名、兄弟はいるけれども第一子ですという方が12名、１人っ子が２名ということで、そうなりますと小学校以上の兄弟児がいるご家庭は３分の１、あとの３分の２は学校公開や行事などで小学校へ足を運んだ経験がないご家庭ということで、保護者の方も子どもも学校生活のイメージがちょっとしづらいのかなというところです。インターネットでいろいろ調べてみたところ、お母様方もこんなことが不安だなというふうに思っているみたいです。お友達となじめるかな、仲よくできるかななんていうところもありますし、学校に行くのが嫌と言われたらどうしよう、お仕事をされているお母さんですので、朝それを言われたらどうしようとか、勉強についていけるのかな、朝ちゃんと起きて送り出せるかななんていう、たくさんの不安をやはり抱えてはいらっしゃいます。

私どもは子どもたち自身に憧れであったり、そういったものを育んでいくことはもちろん大切だと思うのですが、特に幼児期ですので保護者の方、特にお母様の不安感というの

が非常にお子さんに伝わりやすい時期であるとも思っております。ですので、お母様たちにも安心していただけるようにということで、１年に２回保護者会をするのですけれども、後期にはこういったところ、資料を出しまして、これから塔山小学校さんと交流をさせていただくのだよといった予定ですとか、保幼小の連絡協議会で、小学校に行くとこういうところ、みんな結構困っていますよなんていただいた資料から抜粋してお話を発信するようにしております。また小学校教諭のお母様が以前いらっしゃいまして、「オリジナルの資料をつくってあげるよ」なんていうことで、小学校に行くとこんなところが結構困るから、こういうところをおうちでちょっとやってみるといいかもよという資料をつくっていただきまして、それを毎年配付しております。

これは子どもたち自身への取組というところです。やはり今は失敗を恐れるというのは、どの年代も同じであるかなと思っております。小さな「解る！」「知ってる！」「できる！」が自信につながっていくかなと私たちも思っておりまして、年齢や成長に応じて発信力・受信力を育んで、仲間と協同する楽しさを知り、そしてそれが小学校の活動につながっていったらいいなと思っております。

当園ですと自由活動といいますか、子どもの興味関心を大事にして活動していくことが多いのですが、一斉活動、体育遊びであったり、音楽遊びといったものも取り入れております。ときには気持ちが向かなくて、やりたくないなという姿もあったりはするのですが、３歳、４歳であればそういった姿も受けとめるのですが、就学に向けて年長さんになったら「そうか、やりたくないよね。でもちょっとやってみようか」ということで、そういったものに一緒に参加できるようにということで活動したりもしています。

小学校・中学校との連携というところです。塔山小学校とは学芸会の見学、１年生交流、５年生交流、あと白桜小学校とも連携させていただいております。そして中野東中学校からは３年生が職場体験に来てくださるということで、こういった機会をいただいて交流・連携を行っております。

実際の様子です。11 月に一番最初に塔山小学校さんの学芸会にお招きいただきまして、行きました。恐らく児童の発表の日に呼んでいただいていて、一番前のほうで見ることができております。昨年の卒園児さんを見つけて「ああ、上手だね」「あんなふうにできるのだね」なんて、来年の自分の姿と重ね合わせているようでした。

次が 12 月 13 日、白桜小さんにも学芸会に呼んでいただきました。やはり卒園児さんを見つけて喜ぶ姿だったり、帰ろうとすると「もっと見たい」といって帰るのを渋るほど楽

しんでいました。小学校への期待も高まったようです。

例年とてもありがたいのですけれども、塔山小学校さんの１年生と交流させていただいております。２月ですので、大分就学前だなというところで、お母様、お父様も思って、子どもたち自身も思っているころです。１年生さんと交流させていただくことで、去年まで同じグループで一緒に過ごしていた卒園児さんにも会えて、やはり１年生として見るだけではなくて、知っているお兄ちゃん、お姉ちゃんがこんなふうに普通に頑張っているのだということで、安心感と期待感が生まれたかなと思っております。１年生さんの教室でいろいろなものに実際に触れさせていただきました。席に座って、そして教科書を見せていただいて、筆箱を見てのぞき込んで、ちょっと緊張している顔も浮かんでいるのですけれども、こんな姿もあります。広い校舎に大変ドキドキしたようで、保健室だったり、先生にいろいろ教えていただいて、みんなで横を１列になって通っておりますけれども、広さに驚いておりました。また遊具だったりとか校庭の大きさに驚いたり、そして子どもたちが喜べるようにということで、恐らく「だるまさんがころんだ」を一緒にしていただいたと思うのですけれども、先生も子どもの目線で話していただいたりして、先生にも「優しかったね」なんていうところで、とても親しみを持っていたようです。そしてお兄さん、お姉さんは図書室で絵本を読んでくださいまして、すらすらと平仮名を読む姿に憧れて、「ああいうふうになるのだな、小学校になると」と思っていたようです。その後、教室ですか、ピアニカ・縄跳び・マット運動とか、得意なことを披露してくださっていました。ピアニカは子どもたち、特に女の子なんかは憧れて「すごいな」なんていう話もありました。じゃんけん列車ですか、最後、遊んでくださって、子どもたちも、とても距離が縮まったようです。最後は感想発表ということで、小学生の前で感想を発表した年長さんはドキドキしたみたいなのですけれども、楽しく締めくくって帰ってまいりました。

その後、１週間ぐらいしますと、多分来年度お世話をしていただけるそのときの５年生が交流してくださるということで、５年生と１年生の違いも子どもたちは感じていたようで、５年生は司会進行をやっていたり、また合唱を聞かせてくださったようなのですけれども、パート別に歌っていらっしゃったりということで、「５年生すごい」ということで、やはり小学校での６年間の育ちというものの大きさですね。それは私どもの一緒に同行させていただいた保育士のほうも、小学校でこれだけ育てていただいて大きくなるのだなという見通しを持ったようです。５年生と手をつないで学校探検を楽しみました。私どもの卒園児も写っておりまして、一緒に行った保育士も「こんなに大きくなって」ということ

で、立派な姿にとても感激しておりました。優しく接してもらって緊張もほぐれてすっかり笑顔にということで、企画していただいてありがとうございました。

またこちらは職場体験の様子です。こちらに写っているのは、白桜小さんの６年生が後から模造紙にお手紙を一緒に書いて、持ってきてくださいました。園内に掲示させていただいたのですけれども、私たち保育士も小学校、中学校を卒業してから大分たっておりますので、育ちというところでなかなかどういった教育をされていて、どんなふうに育っていくのだろうというところが見えづらいところがあるのですが、６年生、あと中野東中学校さんから来ていただいた中３の子たちを見て、高学年から思春期へというところで、このように子どもたちは育つのだなということで、保育士も非常に、見通しというところで、とても参考になっております。また私たちとしては職場体験に来る生徒さんに、やはり思春期という非常に難しい時期を迎える子どもたちですので、こんなにたくさんの人たちに愛されて大きくなったのだな、小さい子ってかわいいなという思いを持って、学校に戻ってもらったらありがたいなと思って取り組んでいるところです。

まとめです。連携を通して引率、実習を担当した保育士に聞いてみました。園や家庭で小学校生活の知識を得るだけでなく、実際に足を運んで姿を見て憧れを持つことで、学校の生活に期待を持つことができた。幼児にとってやはり直接体験はとても大切だなと思ったそうです。また入学前に教室や校舎、園庭の様子、学校での生活ルールを知っておけることで、安心感が子どもたちにも生まれたようです。また子どもたちがそういった姿を持つことで、保護者の安心にもつながっているという意見もありました。また保育園と小学校の先生の話し方、小学校の先生は「皆さん」という、みんなに対して話しているときには、あなたもその１人だよということを私たちも年長さんには伝えていくのですけれども、そういった話し方の違い、言葉かけの違いにも気づいていたようです。また年下の子にも生徒さんたちが非常に優しく話したりとか、先生たちにも敬語を使う姿を見て、敬語を使うようになるのだなというところにも成長を感じておりました。私たちにとってまた成長の見通しが持てる貴重な機会にもなっております。

これからのというところで、以前塔山小の先生が何年目かの研修で園に来てくださったことがありまして、とてもありがたいねということでそのとき話していたのですけれども、この間は運動会を見させていただいたりとかして、保育士もとても喜んでいたのですが、ふだんの教育活動を見学させていただく機会があると、より連携が深まるかなと思っております。また就学後、とても心配して送り出した子たちがどんなふうに過ごしているかな

というのを知る機会があると、私たちも評価・反省とフィードバックということで、これからにつなげていけるのかなと思っております。

学校体験を楽しんだり自信をつけることにつながりますので、これからも交流どうぞよろしくお願いいたします。ご静聴ありがとうございました。

入野教育長

新垣副園長、ありがとうございました。

ただいま事務局、小中学校、保育園と続けて発表をいただきました。ここで教育委員の方から質問や感想なども含めて、ご意見をいただきたいと思います。

ご発言はございますでしょうか。

田中委員

ご報告ありがとうございました。

教育ビジョン（第３次）の中で保幼小の連携ということを言って、我々も一番大きな柱と考えていたのですけれども、今日お話を伺って僕自身が考えているよりもっと具体的に地域の中で保幼小連携が進んでいるということを聞いて、大変うれしく感じたところです。

今、お話をいろいろ聞いていると、先生方同士がそれぞれの小学校、中学校、あるいは幼稚園や保育園に行って、どんな状況かというのを知ったり、経験する機会がすごく多いような気がしましたけれども、例えば木村校長がさっきお話しした、こんなふうに１年生を受け入れているのだということを地域の方に知らせるというか、そういったことが行われているか。その辺のことを少し教えていただければと思います。

木村校長

地域の方たちにも発信をしています。学校のホームページのほうで日々の活動という形で、写真と言葉、それからペーパーベースでは学校だよりでこのような取組を行っておりますということをご紹介したり、あとは全体保護者会等でも取組を発信しております。

学校だよりは今日入っていただいた正門の脇に、地域の皆様にもご覧いただけるように大きくして張っておりますので、そのような努力をしております。

田中委員

今日のようなお話を地域の方々が具体的に知るということが一番のベースになっていくのかなと思うので、またぜひその辺も進めていただければと思います。

入野教育長

ありがとうございました。いかがでしょうか。

渡邉委員

今日はどうもありがとうございました。非常に詳しくご説明いただきました。少しだけという形でしか言えないですけれども、理解することができました。

私も教育委員になって、教育ということについてまだ数年しか、こういった、もともと畑の違うところから来ていますので、わかっていないのですけれども、やはりこの連携教育を15年かけてやっていくということで、非常に長く一歩ずつ進んでいく。小学校の研究会、幼稚園の望まれる10の姿をどのように具体的にやっているかということを小学校の先生たちと一緒に教えてもらって、学ぶ機会にも私、一応１回参加してきまして、こういうふうな形で取り組んでいるのだなという。

子どもたちは１人でずっと、保育園、幼稚園から小学校、中学校と上がっていく一つの連続ですけれども、この区切りの中で担当する先生方の中にも、自分たちがやってきたことがよかったのかとか、下の部分ではどんなことをやっているのかとか、非常にいろいろと取組の中で理解が進んでいるのではないかなと思っております。その結果として、指導室長が最初に説明されたように、その成果が少しずつあらわれているので、こういった事実が今の中野区における保幼小中連携の実績になってきていて、とてもすばらしいことだなと思っております。

ただ、こういう発表の中でいつも言われるのは、こういうことをやってこんなに良くなりましたということなのですけれども、本来はその中に課題を見つけて、その課題が少し浮き彫りになってきた。５年間やってきて、どういう課題が、その中の課題にどう取り組んでいくかということが、これからは特に重要になるのではないかなと思います。

確かにうまくいったことはそのままうまく伸ばしていただいて、これは最後に指導室長に質問なのですけれども、あまりうまくいかなかった、こういうことを新たに、ここの部分だけは何とか工夫して取り組みたいということがありましたらちょっと教えていただけないかなと思います。

指導室長

細かいところはむしろ学校、保育園、幼稚園の先生方のほうがよくおわかりではないかと思いますが、今、我々が一番大きく課題に感じておりますのは、やはり15年という長いスパン、本当はもっとその先までなのだと思いますけれども、その長い学びの連続性ということをより意識して、さまざまなカリキュラムの連携とか、交流を図っていくようなことをやっていきたいと思っています。

例えば保幼小のところですと、その接続にかかわるところの学年とか、かかわる先生に関しては、そこは理解するのですけれども、そこの接続から遠いところだとあまり関心がないと。これは小中でも同じなのですけれども、小学校高学年の先生と中学校の先生は連携が進むのですけれども、逆に低学年とか中学年のほうだと関心が薄いとか。そういうことではなくて、我々がやっている学習指導要領や幼稚園教育要領、保育所保育指針もそうなのですけれども、そこだけの、自分の校種だけのカリキュラムではなくて、その校種のカリキュラムが前後の学校等のカリキュラムと密接に結びついて子どもを総合的に育てていくのだという、その視点をやはりより明確にしていかないと、どうしても学校ごとの断絶が起こってしまいますので、そこに着目した、今までのことも進めていきますけれども、より着目していくような取組を今後の課題として捉えております。

渡邉委員

ありがとうございました。ぜひよろしくお願いいたします。

それで最後にもう１点だけ、陽だまりの丘保育園の発表の最後のまとめのところに、保育士もふだん、小学校の教育活動を見学する機会があるといいなという、そういった最後の文章を残していただいたのですけれども、これについては、我々としては常に開かれた学校とかそういうことを見て、多少まだ、そういう意味で、開いているつもりだったけれども、まだ間口が狭かったという、少しそういった反省がこの文章の中に取り込まれているのかなと思います。教育委員会としては、開かれた学校といった形で、いろいろな人にその学校を知っていただける機会を設けたいなと。個人的な意見になりますけれども、ぜひ取り組んでいきたいと思います。ありがとうございました。

伊藤委員

発表ありがとうございます。

私としましては特に保育園との連携、接続ということは、これまであまり発表を聞く機会がございませんでしたので、非常に工夫をされていて、子どもたちの主体的な学び、子ども目線でいろいろなことも学べるように保育自体も設計されていて、さらに接続もというところで、とても印象深くお聞きしました。こういうことは一人一人の子どもが見える形で今、渡邉委員も言われましたが、卒園した子がどうなっているかわかる。あるいはどういった環境から来ているかを小学校、中学校の先生がわかるというところがとても大事、個々の子どもの理解にも大事なのだなということを改めて感じます。

これは提案というか、感想というか、要望なのですけれども、別の地域でしたけれども、

思い返したのですが、小学校と中学校の先生が夏休みに子どもの理解のために具体的な子どもたちについて、現在どんな様子で、その子が小学校のときどんなだったかというお話を情報交換する会をしましたら、例えば学校を休んでいる子どもについても、休む前の様子がわかったりして、その後の中学校生活の支援がうまくいって、全校的に大変効果が上がったという事例もありましたので、いろいろと今までやってきたことをさらにバージョンアップというか、さらに課題を具体的に設定して、ねらいを定めてやっていただけると、まだまだできることがあるのかもしれないなと思いまして、大変心強く思いました。ありがとうございます。

小林委員

今日は３人の先生方、お忙しい中ありがとうございました。それぞれ状況を伺いまして、着実にやっていただいているということで、大変感謝したいと思います。

この保幼小の連携ということについては、私が言うまでもなく中野区はかなり全国的にも先駆的にやってきたという経緯があります。したがいまして、こうした連携教育というのは、それなりの基盤が築かれていて、保幼小の連絡協議会を毎年開催したり、多くの保護者の方々にもご理解をいただいているので、一定の成果は上がっているかと思っています。

しかしながら一方で、あえて今後に向けて少し辛口にお話をさせていただきますと、ともするとこのことが目的化してしまっている傾向もありはしないかなと危惧しております。冒頭、指導室長から目的は子どもたちの成長のために生きる力を培っていくのだと。そのための目標として教育内容の充実とか環境整備の改善、これが目標として掲げられました。そしてそれを達成する、目的や目標を達成していくための方法として、小中連携教育や、また保幼小の取組だとか、学校再編があるのだというお話があったわけです。ただ、各先生方や職員の方が一生懸命やればやるほど、全体が見えなくなってしまうようなこともあると思います。だからそういうときは私たちのような立場であるとか、管理職の方々や、全体で、組織的に見直していく必要もあろうかと思っています。

今や全国的に保幼小とか小中連携とかというのは、かなり定番になっているというか、どこでも扱っていることであると思います。私自身も小中連携にみずから本務として携わった経験から、ぜひ三つのことをお話ししておきたいと思うのです。

今日保育園のほうから大変内容の濃い発表をしていただいて、先ほど渡邉委員からのご指摘のまとめの部分には、今後進めていく上での相当なヒントが入っていると思っていま

す。一つ目は、子どもは成長していきますので、私たちの取組というのは上に合わそうとするのですね。それは当然なのです。しかしながら一方で、職員や体制が下に学ばなければいけないということがあるのです。ですから先ほど、それぞれがこういうことをやっているのだなということが今までわかっていなかった。見通しが持てたという、保育園の先生からもお話がありましたけれども、これが非常に大事で、私たちは教育現場や保育の現場で、その枠の中で断絶されてしまっているのですね。そしてその枠の中でものを見ようとしているのですね。ですからそれは上を見るだけではなくて、下を見るということです。

例えば中学校はもっと保育園や幼稚園の方を向いてもいいと思うのです。例えばプロ野球の選手がユニフォームを着られない期間、少年野球教室をやるとか、ＯＢも少年野球教室をやっていますよね。プロ野球の接点って、社会人や大学や高校ですよね。そんな遠く離れたところでどうして少年野球教室をやるのということを少し考えていただきたいのですね。そうすると、保育園や幼稚園の子どもたちが中学生と接することによって、将来的に公立中学校は魅力があるのだなという方向になっていきますよね。でもそれは実は、私にとっては副次的な目的であって、一番大事なことは、そういう中から職員が学ぶということだと思っています。

それから２点目は、これも保育園の発表の中から出てきましたけれども、日常の活動に位置づける、教育課程に位置づけないとだめというのです。職場体験とか何とかという、イベント型の取組でやっても限界があるということです。これはもう今やどこでもやっているし、これまでもやってきたのですね。日常の教育課程の中にどう位置づけていくかという、そのことが非常に私は求められていると思います。それは少し模索していく必要があるのではないかなと思います。

それから３点目は先ほど指導室長も話がありましたが、接続の部分だけを意識してしまうということだと思いますので、やはり全体をしっかり見ていて、場合によっては今の体制を少し変えるぐらいの気概を持っていいのではないかと。何かと言うと、もう既に平成28年に義務教育学校という新しい学校のスタイルが法的に認められているわけですから、これまでのような枠の中で考えるのではなくて、子どもの成長にとって何がいいのかという視点を、常に現場から発信していただきたいということなのです。行政主導ではなくてですね。やはりそのためには子どもたちにとっては何がいいのか、どういう仕組みがいいのかということを先々、フロンティア精神を発揮していただいて、ぜひ発信していただければなと思っています。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。ここで会議を一旦休憩いたしまして、傍聴者の方々からのご意見などを伺いたいと思います。

それでは会議を休憩いたします。

午前１１時１０分休憩

午前１１時１５分再開

入野教育長

会議を再開いたします。

各委員からその他、ご発言等ございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、協議を終了するに当たり、まとめさせていただきます。

本日は校長先生方を初め、陽だまりの丘保育園の新垣副園長、さらに傍聴されている方々からもさまざまなご意見をいただき、本当にありがとうございました。教育委員会としましては、教育理念として「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む」を掲げておりまして、これを実現するための一つの視点として、幼児期からの連続した教育にも取り組んでおります。

本日ご紹介いただきました取組は、まさにこれを具現化してきているものだと思っております。引き続き教育委員会としましては、今日ご意見がございました、基盤には保幼小中それぞれの教育の充実も必要なのですが、さらにその枠を超えて、子どもたちの成長にとって何が必要かということも含め考えたり、子どもそれぞれの成長をつなげて、一人一人に着目して考えていったりということで、進めていかなければいけないというご意見もいただきましたので、これからも保幼小中の連携教育の強化、それから連続性を踏まえた教育を発展していきたいと考えております。

本日の地域での教育委員会の目的は、直接地域に住んでいらっしゃる方々や地域の学校、それから施設等の方々とお話をする機会を得ることでもありました。今回のように具体的にお話を伺うことが必要であるということも実感いたしました。大変有意義な会を進められましたことに感謝申し上げます。皆様、ありがとうございました。今後の教育行政を進めるに当たり、生かしていきたいと考えております。

それでは、本協議を終了いたします。

＜事務局報告事項＞

入野教育委員長

続いて、事務局報告に移ります。

事務局報告の１番目、「『ふれあい（いじめ防止強化）月間』（平成 31 年度第１回）における『いじめ等、児童・生徒間の問題の未然防止と早期発見のためのアンケート』の実施について」の報告をお願いいたします。

指導室長

「ふれあい（いじめ防止強化）月間」（平成 31 年度第１回）における「いじめ等、児童・生徒間の問題の未然防止と早期発見のためのアンケート」の実施について、ご報告いたします。

これまでも東京都教育委員会では、６月と 11 月をふれあい月間に指定し、各学校がいじめや不登校等の状況について総点検を行い、現状や取組の効果等を把握するとともに、いじめ等の早期発見・早期対応、未然防止等につながる具体的な取組を強化してまいりました。本区ではふれあい月間、６月と 11 月にあわせ、さらにそれに３月を加えた年３回、いじめ等、児童・生徒間の問題の未然防止と早期発見のためのアンケートを実施しております。当面の間は結果のみお知らせしてまいりましたが、今回は年度の最初のふれあい月間を実施するに当たり、アンケートの内容等について説明させていただきます。

アンケートはふれあい月間と同じ目的のもと、小学校１年生から中学校３年生までの全児童・生徒及びその保護者に対してのアンケートを、質問方式で実施しております。なお以下に実際のアンケート用紙を添付させていただいております。そちらを見ていただきますとわかると思いますが、小学校３年生以上は児童と保護者を別々にとらせていただいているところでございますが、小学校１、２年生に関しましては、各家庭で保護者が児童に説明していただいて、そこで確認していただいた上で、保護者に書いていただき、そして回収する方式をとっております。

調査方法につきましては、自分自身だけでなく友達のことも含めて、そちらに示させていただきました６項目のカテゴリーで聞いております。いずれかに該当があった児童・生徒につきましては、必ず教員が個別に詳しく聞き取り、その対応や実態についてより明らかにするとともに、その解決に向けて組織的に取り組んでいただきます。またさらに３カ月ほどたった後に追跡調査を行い、児童・生徒、または保護者から聞き取りを行って、完全にそのいじめ等が解消されているかどうかを確認しています。教育委員会では結果を集約、分析し、教育委員会や子ども文教委員会に報告しています。また報告後の対応を学校

任せにせず、その後の状況、対応を聞き取るなど情報連携を密にし、必要に応じて学校への指導・助言を行っているところです。

今回、実際にもう１回目が６月１日から始まってしまっているのですけれども、本当はその前にお示ししたいところでございましたが、都からの通知が遅れてしまいまして、事前にお示しすることができませんでした。申しわけございませんでした。

報告は以上でございます。

入野教育長

ありがとうございました。ただいまの報告につきまして、ご質問、ご発言がありましたらお願いいたします。

伊藤委員

こういったアンケート、限界はあるかもしれませんけれども、友達のことについても書けることで、友達が困っているということを言ってくれたりとか、保護者の方もご自身のお子さんのことや、それ以外のお子さんのことについても書けるようになっているので、目配りをしてくださるという効果もあって、大変大事なものだなと思っています。

いつも後になってしまって、来年の工夫になってしまうのですけれども、項目を工夫していただいて、困っているというだけでなくて、助けてくれる人がいますかとか、そういう、クラスの中で助けてくれるお友達がいますかみたいな、何かポジティブな側面というか、そういったものも含めていただくとか、せっかくのアンケートですので、また項目については毎年少しずつ改善していただきたいなと思いました。

以上です。

渡邉委員

これは中野区独自のものなのでしょうか。東京都から連絡があってやっているものなのか、確認という形で教えていただけたら。

指導室長

ふれあい月間は先ほど申し上げましたとおりに、東京都の教育委員会で、都内で一斉に行っているものでございますが、多くの市区町村ではその機を捉えてこのようなアンケート等を行っているところでございますけれども、中野区の場合はさらにそれに１回加えて年３回行っているということと、さらにはこのことにつきまして、じっくり話をその後も聞いていくということや、何よりも中野区の特別な点は、単にそれが終わったということで安心することなく、３カ月後に本当にそれがなくなりましたかということを子どもや保

護者に確認して、解消まで追跡調査をしている点だと思っております。

以上です。

渡邉委員

ありがとうございました。今、このアンケート、確認をさせていただいたのですけれども、東京都がつくったアンケートであれ、中野区がつくったアンケートであれ、現場に一番近い市区町村とか、そういった自治体が行って、こういった意見があったということを東京都に上げるなり、ですから伊藤委員が言った、そういうところについてのアンケートも必要だということであれば、積極的に取り組んでいただきたいと思いますし、東京都からであればこういった意見がありましたということを、東京都のほうにも伝えていただけるといいなと思っております。

以上です。

小林委員

このアンケートについては、これでしっかりとお進めいただきたいなと思っています。

今、渡邉委員からのご質問のとおり、これは東京都のふれあい月間が年２回、本区は独自にもう１回やっていると。さらには３カ月後の状況を調査するということで非常に手厚くやっているので、大変いいかと思います。

今後、すぐにというわけではなく、ぜひしっかりと検討していただきたい点は、さらにもう少しやりたいという学校に対して何か支援する。例えば形式を区として準備するとか、そういうことも少し検討していただいたほうがいいかなと思っています。

私は、ただ単に回数が多ければいいということを言っているのではなく、これはいじめの早期発見のためのアンケートなのですけれども、実はこの手のものは早期発見が目的というよりも、むしろもっと簡易的なものを毎月やって、それは何かというと発見ではなくていじめの抑止につなげる。いじめ防止の、解消のための指導の手だてとしてやっている学校は結構あるのです。例えば、忙しいとか何とかといってそんなのはいちいちやっていられないとかという声もいろいろ出てくるかもしれませんが、厳しく言うと、これをやらないと発見できないのという見方もあるわけですよね。ですから、発見の目的ではなくて、いじめを未然に防止するという視点からの調査のあり方というのも、ぜひ検討してみてはどうかなと思います。

この考え方は国立教育政策研究所のほうでもリーフレットで出していますので、ぜひそれらを参考にして、少し区として考えていただければと思っています。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。その他、ご発言は。

田中委員

このアンケートをするときに、低学年は担任の先生がいろいろ説明しながらということだと思うのですけれども、小学校の高学年とか中学校では、このアンケートをするに当たって、子どもたちにこのためにやるのだとか、こういったことだとか、何かそういう指導をした上で、このアンケートをしているのかどうか、教えていただきたいと思います。

指導室長

それぞれの学校でご配慮いただいているところだと確信しておりますけれども、当然その目的等は学校等でじっくり説明していただいて、場合によっては配るとき等には、もちろん説明もそうなのですけれども、さまざまな配慮が。例えばこれを書いてしまったからどうなるとかそういうことではなくて、不安を取り払うとか、あと子どもによっては、一斉のところではそういうことができない子どももいると思いますので、個別に渡すとか、そういうことも個別には対処していただいているものだと思っております。

入野教育長

よろしいでしょうか。

このアンケートで万全と教育委員会としても捉えているものではございませんし、万能とも思っておりません。今のご意見等も踏まえまして、さらに改善・改良していけたらなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本報告は終了いたします。

事務局報告の２番目、「平成 31 年度中野区教育委員会『学校教育向上事業』研究指定校等について」の報告をお願いいたします。

指導室長

それでは、平成 31 年度中野区教育委員会「学校教育向上事業」研究指定校等についてのご報告をいたします。

研究指定校は、中野区の教育課題について積極的に実践・研究活動に取り組むもので、一般に研究期間は２年間となっております。資料をご覧ください。

上のほうに書いてございます６校、４グループにつきましては、研究２年次、下の６校につきましては、研究１年次の指定校となります。

研究テーマを大まかに申し上げれば、小中連携教育、新学習指導要領を踏まえた授業改善や学力向上、ＩＣＴ教育、プログラミング教育、特別支援教育などにかかわることでございます。

今年度の研究発表は、表の右のとおりでございます。研究２年目を迎える６校４グループにつきましては、いずれも研究発表を行います。今年度から取り組む１年次の６校につきましては、今年度研究を深め、検証しながら２年目の研究発表を目指してまいります。

裏面をご覧ください。こちらは東京都教育委員会が今年度指定した研究指定校等でございます。今年度は小学校５校、中学校２校が指定されております。内容は人権教育、プログラミング教育、オリンピック・パラリンピック教育にかかわる実践研究で、多くは１年間の指定ではございますが、江古田小学校の人権尊重教育推進校、武蔵台小学校のプログラミング教育推進校の指定につきましては２年間の指定で、ともに今年度が発表の年となっております。

ご報告は以上です。

入野教育長

ありがとうございました。ただいまの発言につきまして、ご発言がございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、本報告は終了いたします。

最後に事務局から、次回の開催について報告をお願いいたします。

子ども・教育政策課長

次回の開催でございますが、７月 12 日金曜日 10 時から区役所５階の教育委員会室にて予定してございます。

以上でございます。

入野教育長

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

引き続きまして、教育委員の皆様には授業視察をお願いしております。

これをもちまして、教育委員会第 18 回定例会を閉じます。ありがとうございました。

午前１１時３２分閉会